

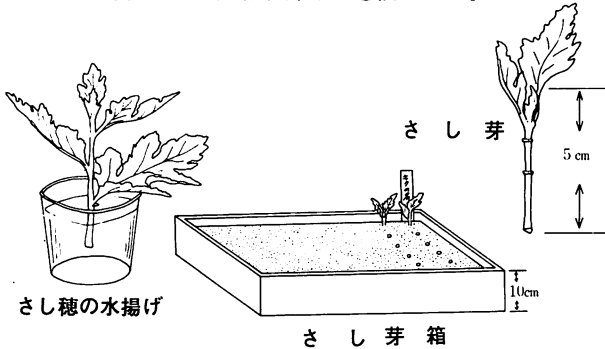
キ ク づ く り 1

培養土

キクは元来丈夫な植物ですが、鉢作りで良い花を咲かせるには、水はけよく、水もちのよいものが適当です。

さし芽

さし芽数により魚箱、鉢などを使います。



さし穂の水揚げ

さし芽箱

肥 料

肥料は油粕・魚粉・米ぬかなどを混合し、冬に発酵・乾燥させたものを使用します。

病虫害防除

定期的に 薬剤散布をすることが大切です。

主な病虫害と薬剤

病虫害名	薬 品 名
黒はん病類	トップジンM、ベンレート、ダコニール1000
しろさび病	トリフミン、ベンレート、サブロール
灰色かび病	ジマンダイセン、サンヨール
アブラムシ	スミチオン、ベストガード、マラソン
ハマキムシ	カルホス、ベストガード、トレボン
ハダニ	コテツ、サンマイト、ダニトロン

薬剤は2024年9月時点で登録されているもの

大ギクづくりの年間栽培暦

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

さし芽	鉢あげ			増し土		
	6号鉢替え			止肥		
	摘心	定植				
	3枝の整理					
	仮支柱	支柱立て	誘引			
	わき芽取り	つぼみのせん定				
	柳芽処理					
	福助さし芽	福助鉢あげ				
					輪台付け	

培 養 土 例

腐葉土	4	腐葉土	3	腐葉土	3
赤玉土	3	赤玉土	4	赤玉土	5
川 砂	2	真砂土	2	川 砂	1
燐 炭	1	燐 炭	1	燐 炭	1

(注) 真砂土はミジンをぬいたもの

さし芽用土

使い方	用 土
単 用	パーミキュライト、鹿沼土、川砂
混 合	川砂+パーミキュライト、川砂+燐炭

施肥料(さし芽より止肥まで)

肥料名	種 類	施 肥 量
乾燥肥料	厚 物	350~540グラム
〃	厚 走 り	350~540
〃	管 物	270~360

液肥

5~7日に1回600~1,000倍に薄めて灌水代りに施します。

肥料名

ハイポネックス、ローンフラワー、ブラントフッドなど。

鉢

栽培用=駄温鉢

定植用=黒焼鉢など

大きさ

4号、5号、6号、

8号、9号

支柱

竹または、合成のもの

キ ク づ く り 2 =大ギク3本仕立て=

大ギクには、厚物・厚走り・管物・大掴・一文字・美濃菊などがあります。作り方は、1本作り、3本作り、5本以上の多幹作りといろいろですが、ここでは、3本仕立について説明してみましょう。

鉢あげの要点

用土は強くおさえこまず、苗がぐらつかない程度に植えます。

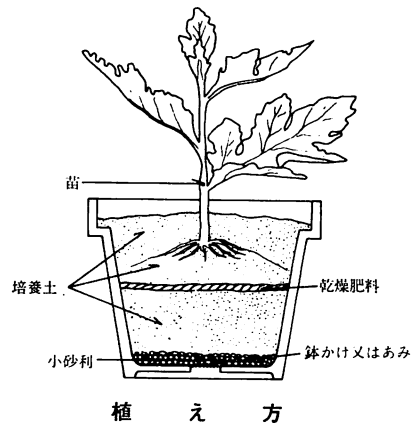
植え終わったら、たっぷり水をやります。

鉢あげ後の管理

鉢あげ後3～4日は、ヨシズなどで日光をさけ、灌水は鉢土の表面が乾いてからやります。

6日目ごろ、液肥を灌水代りに施し、同時に乾燥肥料を大さじ1杯、2か所に置きます。

日常の灌水は朝1回充分にやります。



植 え 方

摘心と3枝の誘引

苗が10cmくらい伸びたころ、芽先の葉を指先でわけて、ピンセットで摘心します。

枝の曲げ方

三本の芽が10cmくらい伸びたところに、針金（16番線）とビニールひもで、枝を曲げます。なお、当日の灌水は、枝を曲げた後に行います。



枝 の 曲 げ 方

仮支柱立て

曲げた枝が伸び始めたころから、本鉢に定植するまで、仮支柱を立て誘引しておきます。

6号鉢と本鉢の定植

鉢あげ後20日で6号鉢に、さらに、20日後に本鉢に定植し、支柱を立て誘引します。移植の際根をくずさないようにし、元肥は鉢に合わせて多くやります。その外は、鉢あげと同様にします。

輪台付け

輪台は花卉の乱れを防ぎ、花の形を整えるために付けるもので、取り付け時期は、厚物厚走りでは2～3分咲きのころに、また管物は、7～8分咲きで付けます。



仕 立 て あ が り